講義名	中国語資格試験準備B					授業形態	
担当教員	白根　理恵	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 ３時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	CHI226

主題と概要

初級中国語既習済みのレベルの学習者を対象とした授業。
基礎中国語の徹底理解は中級に向けて必要なものなので、このクラスでは学期前半この基礎中国語の応用練習がメインとなる。
重点語法を使った練習問題を適宜配布し、文法の理解を徹底させ、簡単な作文をかけるようにする。
ヒアリング練習は配布する教材を用いて行う。
既習の文法、文型を応用してより複雑な中国語表現練習を行う。
基礎文法の定義は中国語検定試験４級レベルと合致しているためこの授業では４級受験が可能な授業内容となる。

到達目標

初級文法の基礎固めを行い、リスニングともに検定４級レベルが合格ができるようにする。
主に文法とライティングがメイン。リスニングはディクテーションによる理解を目指すようにする。

提出課題

授業のたびに指示する。
基本的に定量の問題を準備しているのでやり残しの部分を課題（宿題）として毎回提出。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題に対する解答解説は必ず次の授業で行う。
形式はさまざまであるがプリントに記載した形で
解答を示す場合もあるし、時間がある場合
問題形式を変えて復習させるときもある。

どちらにせよ、課題のフィードバックであることを
伝えるので学生側の混乱はないと考える。

評価の基準

平常点３０%。
学期末試験７０%。
　平常点は小テスト（１０%）、課題提出（１０%）、授業態度（１０%）によって決まる。
　授業欠席日数が３分の１を超えると学期末試験を受けることができない。
　検定試験の合否及び出席率は評価基準に入れない。

履修にあたっての注意・助言他

自己管理を心がけてほしい。
質問は大いに歓迎。
他の学生も疑問の解明を共有できるようしている。

テスト直前にまとめプリントを必ず配布している。
文法のみのまとめだが、頭の整理に役立ててほしい。

毎授業後既習文法の確認、単文、会話文等の暗唱をすること。
さらに次回の授業のための漢字、単語等の予習をすること。
以上授業ごとに復習2時間、予習2時間が必要となります。

教科書

.使用しない.				

参考図書

その他

毎回配布

授業計画

1　中国語基礎の確認　予習：テキストに目を通す（2時間）
　／復習：知らない文法や単語を自習する（2時間）
2　比喩表現　複文　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
3　形容詞の程度　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
4　ことわざ　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
5　近未来表現　前置詞　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
6　可能補語　程度補語　方向補語　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
7　可能性　前置詞の総まとめ　予習：テキストに目を通す（2時間）
　／復習：知らない文法や単語を自習する（2時間）
8　因果関係　テスト　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
9　複文　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
10　肯定文の強調表現　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
11　並列文　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
12　近未来表現　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
13　完了表現と副詞　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
14　連用修飾語　予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
　／復習：会話文の予習：テキストに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）
15　文法まとめ　復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
　テスト準備のまとめプリントを覚えること。（2時間）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

中国語の4技能（聞く、話す、読む、書く）について実用的かつ基礎的な語学力を習得するとともに、中国の社会や文化について理解する資質・能力を身につける。
この科目は2年生から履修可能な外国語関連科目で、中国語の語学力の向上を図るとともに、グローバルの視点から海外の社会や文化をより広く深く学ぶことができる。これらの能力は商学部生に求められる各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識・経済学部生に求められる経済にまつわる情報分析の力・人間社会学部生に求められるコミュニケーション能力の修得に役立つ。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

教科書は使用しない。
毎回学習プリントを配布する。